

平成 21 年 9 月 2 日

文科省科研特定領域「核融合トリチウム」

計画研究および公募研究の代表者および分担・協力研究者 各位

領域代表 田辺哲朗

8月28,29日に開催致しました中間評価報告会は成功裏に終わることが出来ました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。本領域が多大な成果をあげていることが、改めて確認できました。日頃のご努力・ご協力に厚く御礼申し上げます。ご出席頂きました方々はもちろん、あいにくご出席いただけなかった方も含め、本領域量関係者の皆様のご努力ご協力の賜です。ありがとうございました。また9月30日のヒアリングに向けて、大変力づけられました。

さて、添付は、小生の、はじめの挨拶と最後の総括で使いました、ビューグラフをpdfファイルにて送付させていただきます。そこにも書いておりますが、個々の業績は、本当に沢山あります。しかし、領域として、最初に約束として掲げた目標を達成するためには、全体で本領域が何をめざしているか、皆様に再認識していただく必要があると感じました。

燃料としてのトリチウムを考える時

トリチウム安全性

トリチウムの経済性

トリチウム特殊性 (放射線の効果、質量の効果)

の3点にどのような寄与ができているのか、寄与をしようとしているのか。

そして

**ITER** あるいは核融合炉のトリチウム (システム) にどのように貢献 (定量的に) しようとしているのかです。

ご一覧の上、今後の研究に反映させていただけますよう、強く希望いたします。

また、トリチウム 2010 国際会議(2010年10月24-29日 於 奈良新公会堂

<http://tritium2010.nifs.ac.jp/index.html>

来年2月14日が abstract 投稿の締め切り (予定) 日です。成果を発表していただけますようお願い申し上げます。

